

今、日本では「無縁社会」という言葉が頻繁に使われるようになりました。「無縁社会」といいますと、誰とも縁のない、孤独で寂しい社会のように感じますね。

「無縁」という言葉は、一般的に「縁がないこと」や「関係がないこと」を意味します。また、「社会」という言葉は「世の中」や「世間」という共同の生活を営む人間の集まりや場所を意味します。

そう考えますと、「無縁」というつながりのまったくない「社会」は存在しないでしょうし、つながりのない「社会」はもはや「社会」とは言えないと思います。

「無縁社会」という言葉の意味は、人間同士の関係性というつながりが希薄になったという意味合いから、「無縁化してしまった社会」ということになります。

そのような「無縁化してしまった社会」といわれる現代において、過日、東日本大震災という、未曾有の災害が起こりました。多くのいのちが奪われ、今でも行方不明の方がおられます。また、沢山の方が被災をしました。とても悲しくつらい出来事でありました。

しかし、この災害において、多くの人々の助け合いの姿が見られました。被災地の救援活動や、物資をはじめとする様々な支援活動、あるいは一般の方々のボランティア活動などが活発に行われております。人と人が互いに支え合うことの大切さや素晴らしいさに深く感銘を受けました。普段、私たちが感じていない人と人とのつながりが目の前にあらわれたような気がしました。

本来、「無縁」という言葉には、「すべてのものを平等に見なして、対象の区別を立てないこと」という意味があります。これは、縁があるとかないとかをこえた「縁」ということで、「すべてのものは目に見えない縁に支えられている」という意味でありましょう。

家庭崩壊や孤独死というような、寂しい言葉をよく聞くような現代ではありますが、お互いに決して一人ぼっちではなく、目に見えないところでつながっているという事実。そして、支え合って生きているという「縁」を感じながら、共に生きる社会であってほしいと願うのです。